

少女は自転車にのって

「女性に対する暴力をなくす運動」期間（毎年11月12日～11月25日）にちなんで、11月22日（土）に映画上映会&ミニトークを開催しました。

今回の上映作品は、サウジアラビア初の女性監督作品でもある「少女は自転車にのって」。ミニトークのゲストには、サウジアラビア王国ジッダ日本人学校 前校長清水昇さんをお迎えし、現地で実際に見たサウジアラビアの生活、女性の暮らしについてお話していただきました。

たくさんの方にご来場いただき、本当にありがとうございました。



平成26年11月22日（土）

◆ミニトーク 13:00～

◆上映 13:30～

◆作品内容◆

サウジアラビア初の女性監督が、同国俳優を起用し、すべて国内で撮影したサウジアラビア初の長編映画。女性のひとり歩きや車の運転を禁じる同国で、女性として生きることの厳しさを直視しながら、それでも前向きに生きる少女の日常をストレートに映し出す。

◆ミニトーク ゲスト◆

サウジアラビア王国 ジッダ日本人学校

前校長 清水 昇 さん



清水先生は昭和55年から3年間、平成23年から3年間、サウジアラビア王国ジッダ日本人学校に勤務されていました。



ミニトークでは、サウジアラビアについての基本的な知識、日本の生活との違い、サウジアラビアにおける女性の暮らしについてなど、スライドを使ってたくさんの写真とともにお話していただきました。

サウジアラビアの女性について

- アバヤ・ヒジャーブの着用
- 基本的に男女は区別される（学校、レストラン等）
- 女性は運転ができない
- 女性だけでの外出は、しにくい
- 就労は少ない
- 一夫多妻が認められている



(※当日の清水先生のスライド資料より引用させていただきました)



サウジアラビアの女性たちの一般的な服装を、ステージ上で実際に着用し、紹介する場面も。

いろいろな制約がある中で生きているサウジアラビアの女性たち。「人権が妨げられていたり、抑圧されている中で、社会を動かしていかなければならないと思う女性たちがたくさん出てきています」と清水先生は感じられたそうです。

アンケートより

ミニトークが映画をより深く理解する手助けになって良かった。
(40代・男性)



サウジアラビアも少しずつ変わりつつあることを感じました。サウジアラビアの様子を知ることができました。(60代以上・男性)



サウジアラビア(中東)の国の風習は漠然としか知らなかったなので、短い時間でしたが、勉強になりました。(40代・女性)



いろいろな制約がありながらも前向きに生きていこうとする少女の姿に感銘を受けました。(40代・女性)



ミニトークでサウジアラビアの説明を聞いていたので、いかに少女や母親の行動や決断が勇気のあるものなのだということが分かった。(40代・女性)



イスラムに興味があったので、トークにも大変興味があった。やはり住んでみないとわからない情報などがあるので、面白く感じた。(40代・女性)



サウジアラビアのことを全く知らず、驚きでした、日本がどれだけ幸せか感じました。(40代・女性)



サウジアラビアの様子を映画の前に伺ったことで、女の人の位置や考えが知れ、深く見ることができ、とても良かったです。(50代・女性)



今回、上映会に参加された方は、初めて参加した【32.3%】・2、3回参加したことがある【38.7%】・よく参加している【29.0%】という結果でした。初めての方も、コムズによく来てくださっている方も、今回の映画とミニトークが改めて女性の人権について考える機会になったようです。

次回の上映会は、平成27年2月14日(土)です。上映作品は「きな子ー見習い警察犬の物語ー」です。トークゲストには警察犬訓練士の川西智紗さんをお迎えします。詳細は、またホームページにてご案内いたしますので、お楽しみに!!